

## 監修のことば

テキストマイニングは1990年代から特許、福祉・看護・医療、ビジネス、政治、言語・文学などの分野で研究応用が展開されてきた。しかし、法科学におけるテキストマイニングに関する研究と応用は、上記の分野と比べ遅れを取っている。テキストマイニングの手法を犯罪捜査に活用した2003年の保険金目的の殺人事件以来、犯罪捜査におけるテキストマイニングの重要性と有効性が関係者の注目を集めるようになったが、捜査機関や法曹関係者を含めあまり周知がなされていない。

たとえば、2012年に他人のPCがウイルス感染させられ、遠隔操作によって無差別殺人や爆破の予告メールが自治体や幼稚園に送信された。この事件では、IPアドレスを基に捜査した警察がPC所有者4名を逮捕した。しかし、その後、「真犯人」を名乗る犯行声明メールが報道機関などに送られ、誤認逮捕が判明した。IPアドレスのみに頼らず、送信された犯罪予告の文章などを計量分析していれば、誤認逮捕を最小限にすることができたはずである。

最近では、殺人事件に関する被害者なりすましの携帯メールもある。急速に発展する情報化社会においては、犯罪予告、被害者なりすまし、誹謗中傷等、犯罪が多様化する時代になっている。新しい時代に必要となる新しい技術と知識を一般市民まで周知を図るために本書の監修に至った。

本書の著者は、上記のサイバー犯罪の現状を踏まえ到来する時代を予測しつつ、短い期間にテキストマイニング法による犯罪捜査に関連する十数篇の研究論文を国内外にて公表し、それをベースに本書をまとめた。本務のかたわら、これほどの成果を上げていることは、著者の有能さと情熱を兼ね備えていることが推察できる。

本書は、近年の国内外のテキストマイニング法を用いた法科学に関連する研究成果を平易にかつ系統的にまとめたものである。本書は、テキストマイニングの基礎知識を解説した上で、著者識別、犯罪者プロファイリングを想定した

著者の性別・年齢層の推定，犯罪動機分析を実例を用いて解説している。本書の内容は，テキストマイニング法を犯罪捜査に適応する可能性を示しただけではなく，テキストマイニングの方法論も織り込まれている。著者が提案した多変量データ解析におけるスコアリング法は，データの統合的分析において有効な方法である。

本書は，数式を最小限にし，身近な実例を用いて説明しているので非常にわかりやすく，高校の知識でほとんど理解できる。また，関心を持っている一般市民の読み物としてはもちろんのこと，捜査機関・法曹関係者の研修用テキストや大学のテキストマイニング講義のテキストおよび主な参考書にも適している。

犯罪捜査のためのテキストマイニングに関する著書は，国内外に見当たらない。本書の刊行が，テキストマイニングの学問の発展および犯罪捜査を含む法科学に少なからず貢献できれば幸いである。

2018 年秋 吉日

金 明哲